

## 第5期 帰島準備期(平成14年3/12一時帰宅～平成17年2/1避難解除)

### 5-1. 噴火活動の沈静化

#### 1. 火山活動の沈静化

##### 01. 小規模な噴火は続いている。

平成14年3月31日小規模噴火発生、北東方面で少量の降灰を確認

平成14年4月2日小噴火発生、東部で少量の降灰を確認

平成14年4月3日小噴火発生、東部で少量の降灰を確認

平成14年6月15日小噴火発生、三七山で少量の降灰を確認

平成14年8月1日小噴火発生、三池地区で少量の降灰確認

[三宅村商工会ホームページ <http://www.miyakejima.jp/funka/kuroku/kiroku.html>]

##### 02. 火山活動は長期的に低下傾向にある(平成14年5月)。

平成14年5月23日、三宅島では山頂火口から二酸化硫黄を多量に含む火山ガスが依然として放出され続けているが、その量は減少してきている。山頂からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向が続いている。噴煙の高さや勢いも長期的に下降傾向である。島の収縮を示していた地殻変動は鈍化し、この1年間の地殻変動の傾向に大きな変化はない。今後も少量の降灰をもたらす小規模な噴火は発生する可能性はあるが、火山活動は全体としては依然として低下途上にあると考えられる。火山ガスの放出量は減少傾向にあるが、現在でも風向きにより二酸化硫黄の濃度が高くなることもある。風下に当たる地域では引き続き火山ガスによる警戒が必要。また、雨による泥流には引き続き警戒が必要。[『平成15年東京都の災害』東京都(2005/3), p.79]

##### 03. 火山ガスは平成12年10月頃の最盛期より1/6程度まで減少している(平成14年10月)。

平成14年10月15日、三宅島では依然として山頂火口から二酸化硫黄を多量に含む火山ガスが放出され続けているが、その量は減少してきている。火山ガスは白色の噴煙として連続的に放出されているが、その高さや勢いは長期的には低下傾向にある。二酸化硫黄の放出量も、最近数ヶ月では1日あたり4千～1万数千トン程度となり、平成12年10月頃の最盛期と比べると1/6程度になっている。山麓で高濃度の二酸化硫黄が観測される頻度も少なくなっている。火山性地震の活動に大きな変化はないが、地震の頻度や低周波地震の振幅に低下傾向が見られる。[『平成15年東京都の災害』東京都(2005/3), p.79]

04. 火山ガスは長期的には低下傾向にある（平成 15 年 1 月）。

平成 15 年 1 月 21 日、火山ガスは、その高さや勢いは長期的には低下傾向にある。二酸化硫黄の放出量も、最近数ヶ月では 1 日あたり 3 千～1 万トン程度となっている。[『平成 15 年東京都の災害』東京都(2005/3), p.80]

05. 火山活動はゆっくりと低下してきている（平成 15 年 5 月）。

平成 15 年 5 月 13 日、火山活動は、全体としてゆっくりと低下してきているが、最近半年程度は低下の割合が緩慢になっている。[『平成 15 年東京都の災害』東京都(2005/3), p.80]

06. 火山ガスの放出は当面続く（平成 15 年 10 月）。

平成 15 年 10 月 28、火山活動は、全体としてゆっくり低下してきているが、最近 1 年程度は低下の割合が緩慢になっており、火山ガスの放出は当面続くと考えられる。[『平成 15 年東京都の災害』東京都(2005/3), p.80]

07. 火山活動は、最近 1 年半以上大きな変化はない（平成 16 年 6 月）。

平成 16 年 6 月 30、火山活動は、最近 1 年半以上大きな変化はなく、現在程度の火山ガスの放出は当面継続する可能性があると考えられる。[『平成 15 年東京都の災害』東京都(2005/3), p.81]

08. 現段階で大規模な噴火につながる兆候は認められない（平成 17 年 2 月）。

平成 17 年 2 月 23 日、平成 16 年 11 月末から 4 回の小噴火が発生したが、火山活動は、全体として大きな変化はない。今後も山麓に降灰をもたらす程度の小規模な噴火の可能性はあるが、現段階で大規模な噴火につながる兆候は認められない。二酸化硫黄を含む火山ガスの多量の放出はしばらく継続すると考えられる。今後も局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもあるので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要。[『平成 15 年東京都の災害』東京都(2005/3), p.81]